

みわ 陽子議員 の討論

請願第9号 江南市学童保育の待機児童解消を求める請願書 について

厚生文教委員会の不採択に反対の立場すなわち請願を採択していただきたいという立場で討論を行います。

今回の請願は江南市において毎年発生している学童保育の待機児童を何とか解消して、児童が安全に過ごし、保護者が安心して働くことができるようにしてほしいとの市民の切実な要求から出された請願です。

江南市では2025年度の学童申し込みに対して、通年44人、夏休みなどの長期利用で90人合わせて134人もの方に保留という待機の通知が届きました。これは昨年より、57人も多い保留通知です。保留というのは今は学童に入れないが、空きができたからお知らせし、それから入所できるというもので、いつから入れるのかが全く分かりません。子どもが学童に入れるつもりで、仕事の時間を調整したのに、いつからかわからないので、仕事の時間を減らしたとか子どもだけで留守番させることになるので、鍵をしっかりとかけて万が一不審者がはいつてきたら、トイレに逃げて鍵をかける練習をしたなどの悲痛な声をいくつか聞きました。

近隣市町でほとんど待機児童がでていないのに、江南市だけ毎年多くの待機児童がでています。子育て世代に江南市に住み続けてもらうには、今までと同じ対策で来年も待機児童が出てもやむをえないとは言ってられません。

例年、夏休みは派遣で指導員を増やし、待機解消を目指していますが、長期の保留解消の通知が7月に入ってからということもあり、これでは7月の仕事のシフトが組めません。夏休みに学童が利用できるかどうかを遅くとも6月末、できれば夏休み1か月前の6月20日までに知らせて欲しいというのは、働く保護者にとって当たり前の要望です。

学童保育の待機解消には、指導員さんの確保が特に重要です。

指導員さんの退職や他自治体への転職を防ぐことができるよう、待遇や環境の改善が必要です。時給は近隣自治体と同じ程度になったようですが、ボーナス支給の条件が江南市では週20時間以上勤務、近隣自治体は週15.5時間以上勤務でこの間にはいる時間数で働く指導員さんが多いのが大きな問題です。同じ時間働いて、ボーナスが出る自治体と出ない自治体があるなら、少し遠くてもボーナスの出る自治体に転勤するでしょう。まずここを近隣並みにすべきです。

1クラス40人以下での保育も重要です。江南市では40人に2人の指導員配置の基準は満たしていても広い部屋に大勢の児童を入れている学童が多いので、走り回ったり、騒いだりする児童が出てきて落ち着きません。大口町や扶桑町では人数の多い学年と少ない学年を組み合わせるなどして、1つの部屋の児童は40人以下になるように工夫している所が多く、ゆったり落ち着いて子どもたちや指導員が過ごしているようです。

又、指導員の中にはリーダー的な方がいて、全体の様子を掌握されているようです。

江南市では週3日、4時間ずつぐらいの短時間の会計年度任用職員で、くるくるまわして、シフトを組むのも、役所の担当者がまとめて行っているのも、急なシフト変更などがしにくいこともあるようです。

指導員が足りないところは派遣で補うということをして市は続けています。今年度も2000万円以上の予算を当初で出しています。少しでも待機児童解消をとという姿勢はわかります。しかし急にきた資格もない派遣の方には、今いる指導員さんがいろいろ教えながら仕事をしなければなりません。全部が派遣社員にわたっていることはないとはわかっていても、自分たちより高い時給が支払わ

れていることがわかっているのです。指導員さんたちは内心おだやかではありません。派遣に払うお金があるなら、指導員の時給アップやボーナス支給にあててもらってもいいのでは。そうすれば他市町にいてる指導員ももどってくるのではと考えていらっしゃると思います。

低学年の児童では 1600 時間と学校で過ごす時間 1200 時間よりも多くの時間を過ごしている学童です。

40 人以下規模の単位にして、クラス担任にあたるような常勤職員配置に改めていくような根本的な体制転換を図らなければ今後も増え続けるであろう学童保育を必要とする保護者のニーズに應えることはできません。

募集しても集まらないのだから、民間に任せてはという意見も委員会で出ました。

民間がすべて悪いわけではありませんが、他市での様子を聞いていると、お稽古事などをセットにして、月額3万円とか5万円などと高額な保育料をとっているところが多くあります。

学童保育は放課後に学校から児童が行けるところでしか運営ができません。もし今ある学童が高額な民間学童になって、近くの子どもが通えなくなるようなことがあってはなりません。

もし民間学童とするなら、公立との差額を市が補助するなどの方法をとらなければならなくなり、これもなかなか困難です。

厚生文教委員会で、市や担当課が精一杯やっていて指導員が集まらないのだから、これ以上待機児童をなくせとは言えないから不採択という意見が多くありました。

しかし、近隣市町で出ていない待機児童を江南市で多く出していて、それをなくす方法がすぐ見つからないからと言って、この請願を不採択にするということは、市民の困っているという声に向きあわず、議会として待機解消に動くことはしない。来年また多くの待機児童がでてもしかたがないと宣言することになり、市民からの信頼を失いかねません。

江南市に引っ越してきて残念とか江南市は子育てしにくいと市民に言われないようにするためにも、議会としても市民の困りごとを解消するため担当課と一緒に待機解消の方法をさぐる努力をする姿勢を市民に示すことが必要ではないでしょうか。そのために、ぜひ議員の皆さんが請願を採択していただき、議会は市民の声に耳をかたむけているという態度表明ができるようお願いします。